

DH ・ 技術要素 ・ Web Annotation / Mirador

Web Annotation と Mirador

画像に「注釈」をつける

DH入門 / 技術要素シリーズ

中村

※実験的な取り組みです（構成・図・AI音声合成を含む）。内容をご確認・ご注意のうえご利用ください

この動画について

- ✓ **クリエイティブ・コモンズ**のオープン教材（IIIF等）を参照し、独自に構成した解説です
- ✓ スライド・図は新規作成、ナレーションは**AI音声合成**（この回は本人のクローン声ではありません）
- ✓ これは**実験的な取り組み**です。内容は**ご確認・ご注意のうえ**ご利用ください
- ✓ 誤りに気づいたら概要欄からご指摘ください。出典・ライセンスは末尾と概要欄に記載しています

この回のゴール

注釈を「共有できるデータ」にし、画像に付ける考え方をつかむ

- ✓ **Web Annotation** が、注釈を共有・再利用できるデータにするW3C標準だと説明できる
- ✓ 注釈 = **body (中身) + target (対象)** という基本の形を説明できる
- ✓ **セレクト**で対象の「一部分」(本文の引用箇所・画像の領域)を指せる、とイメージできる
- ✓ **Mirador** (IIIFビューア)で画像の領域に注釈を付ける、という実践をイメージできる

IIIF (画像を配るしくみ)を知っていると分かりやすいですが、必須ではありません。

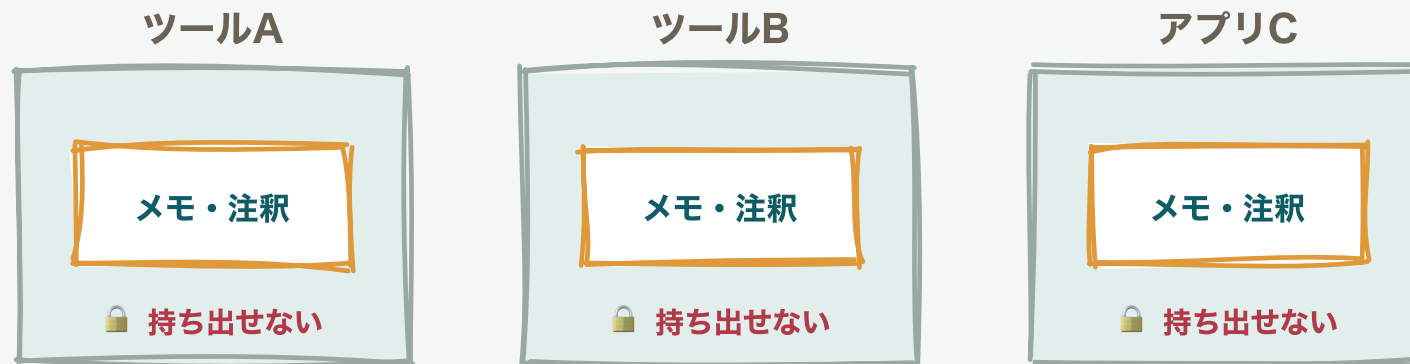
今日の流れ

- ✓ なぜ注釈の「標準」が要るのか
- ✓ Web Annotation のしくみ — body と target、セレクタ
- ✓ 注釈じたいがデータになる — JSON-LD と目的
- ✓ Mirador で実際に — 画像の領域に注釈をつける
- ✓ 始め方・学ぶには

なぜ「標準」が要るのか

まずは、注釈の困りごとから

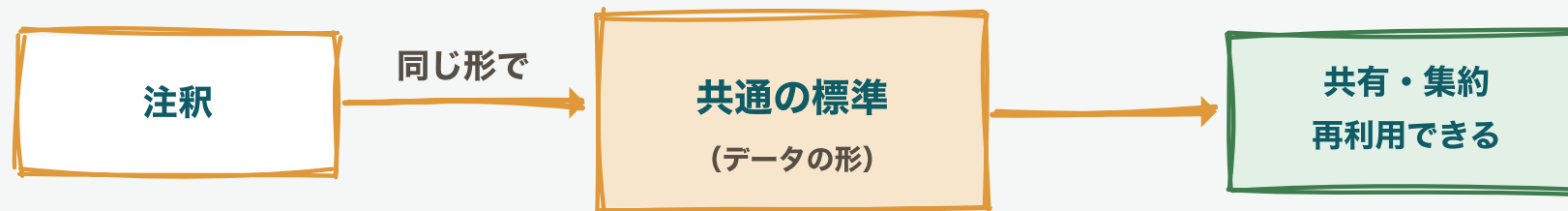
注釈は、ツールに閉じこもりがち



ツールごとに注釈が閉じこもり、共有も再利用もしにくい

メモやコメントは、付けた**ツールの中に閉じこもり**、別の場所では共有も再利用もしにくいものです

共通の「標準」があれば



注釈を「データ」にすれば、道具を越えて持ち運べる

注釈を**同じデータの形**にそろえれば、道具を越えて**共有・集約・再利用**できます

Web Annotation — 注釈の標準

注釈を、共有できる「Webのデータ」にする

Web Annotation

注釈の標準
(データの形と作法)

W3C 勧告 (2017) / 中身は JSON-LD (リンクトデータ)

Web Annotation は、注釈を「共有できるWebのデータ」にするための標準。**W3C勧告 (2017)** で、中身は **JSON-LD** です

ここまでのポイント

- ✓ 注釈は、付けた**ツールに閉じこもり**、共有・再利用しにくくなりがち
- ✓ **同じデータの形**にそろえれば、道具を越えて持ち運べる
- ✓ それを定めたのが **Web Annotation** (W3C勧告・中身はJSON-LD)

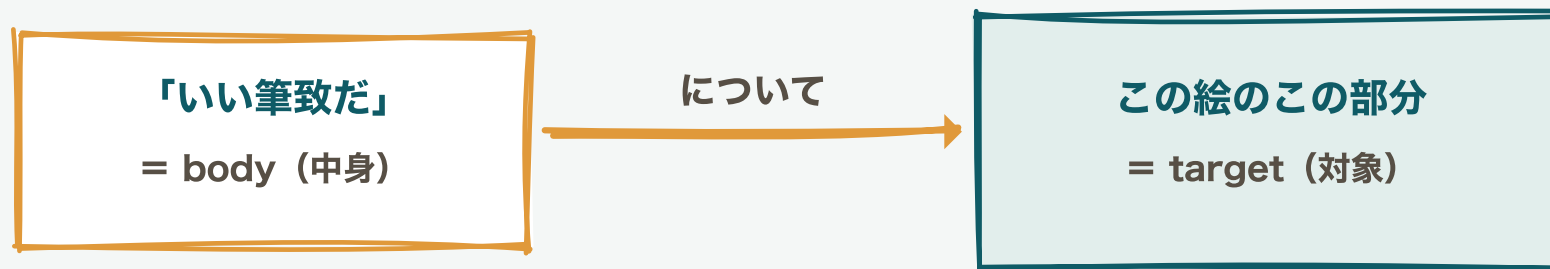
では、その「データの形」は、どんな形をしているのでしょうか。 → body と target へ

Web Annotation のしくみ

注釈の「形」を見ていきます

注釈 = body (中身) + target (対象)

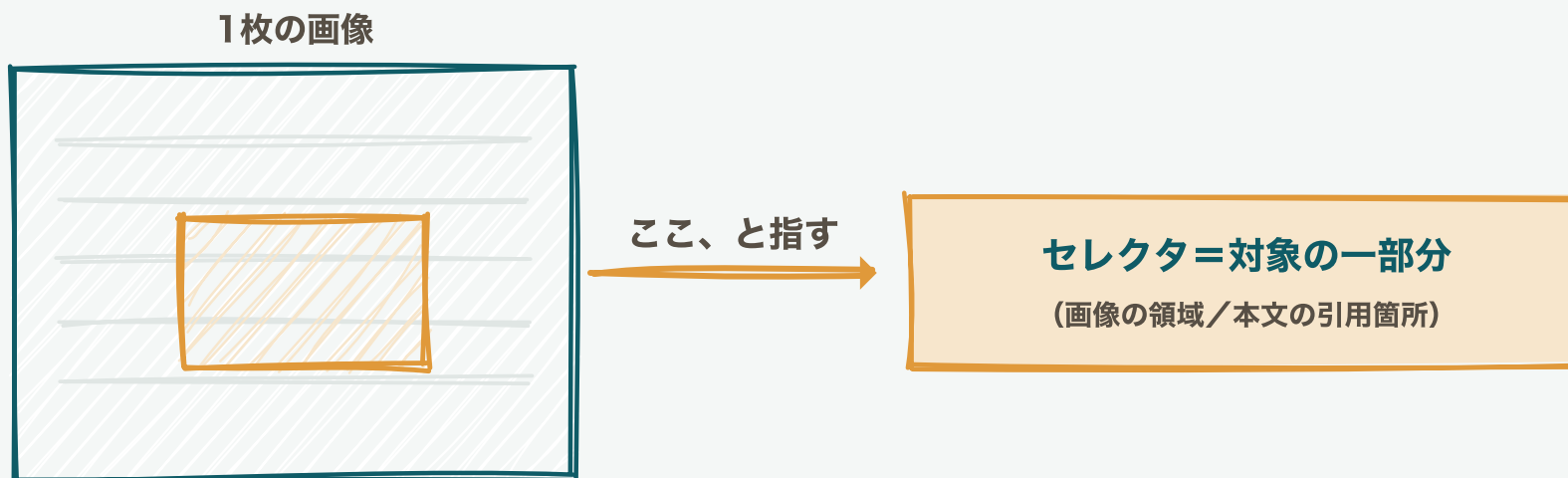
注釈 = 「中身」が「対象」について述べる、の2点セット



body (コメント) + target (何に付けたか)

注釈の基本は、**中身 (body)** が**対象 (target)** について述べる、という2点セット。「このコメントは、あれについて」です

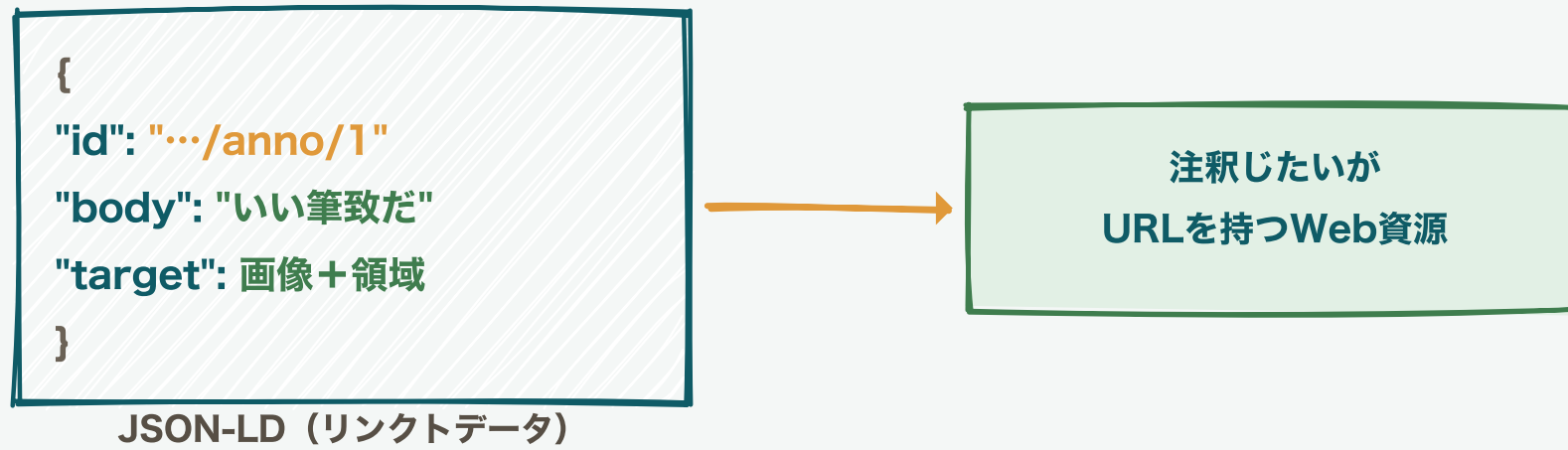
セレクト — 対象の「一部分」を指す



対象は「全体」だけでなく、セレクトで「一部分」も指せる

対象は「全体」だけでなく、**セレクト**で「一部分」も指せます — 画像の**領域**、本文の**引用箇所**など

注釈じたいが、IRIを持つWeb資源



注釈にIRIが付く → 単独で共有・集約・引用できる

注釈は **JSON-LD** で書かれ、**自分のIRI (URL)** を持ちます。だから単独で**共有・集約・引用**できます

motivation — 注釈の「目的」

motivation=その注釈の「目的」



同じ「body+target」でも、目的を添えて意味づけできる

同じ「body+target」でも、**目的 (motivation)** を添えられます — コメント・タグ付け・ハイライト・説明など

ここまでのポイント

- ✓ 注釈の基本は **body (中身) + target (対象)**
- ✓ **セレクト**で、対象の「一部分」(画像の領域・本文の引用箇所) を指せる
- ✓ 注釈は **JSON-LD** で書かれ、**自分のIRI**を持つWeb資源 = 共有・集約できる
- ✓ **motivation** で、コメント・タグ付けなどの「目的」を添えられる

では、これを実際に「画像」へ付けてみましょう。 → [Mirador](#) へ

Mirador で実際に

画像の領域に、注釈をつける

Mirador — IIIFの画像ビューア

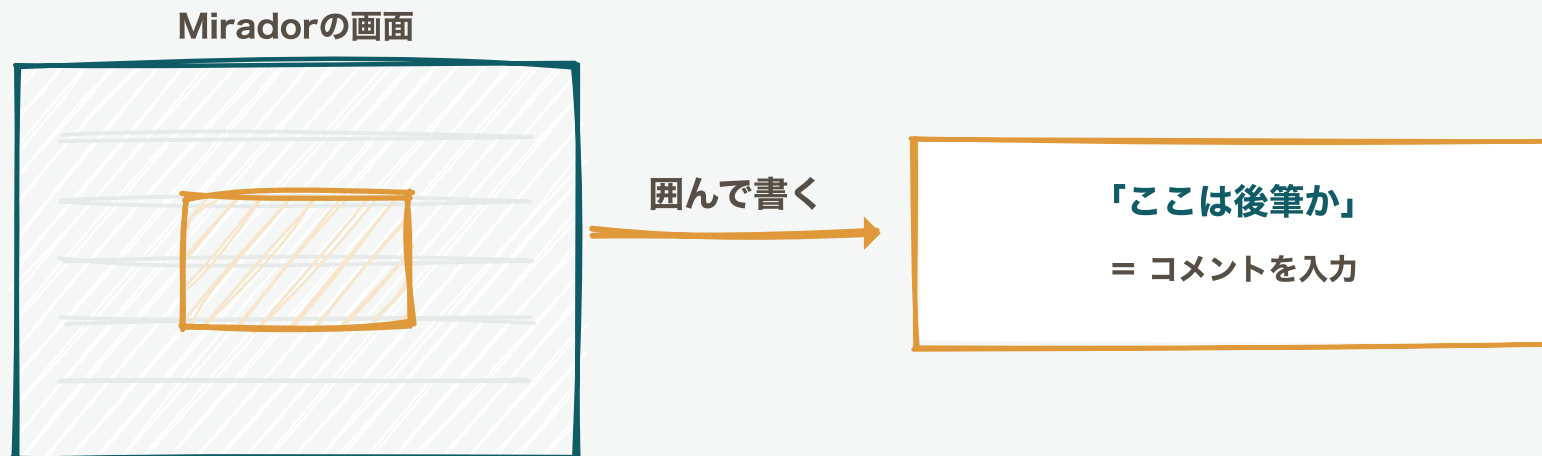


- 複数の画像を並べて比較
- ズーム/パン
- 注釈の作成と表示

Miradorは、トリプルアイエフの画像を見る・比べる・注釈する道具

Mirador は **IIIF** の画像を、見て・比べて・**注釈する**ための、広く使われるオープンソースのビューアです

画像の領域を囲んで、コメント



領域を囲んでコメント → 中身は Web Annotation が生成される

画像の領域を囲んでコメントを書く — その中身は、**Web Annotation** (body + target + セレクタ) として生まれます

IIIFの画像に、注釈を重ねる



IIIFの画像に、Web Annotationの注釈を重ねて、Miradorで見る

IIIFの画像に **Web Annotation** の注釈を重ね、**Mirador** で見る。画像を「配る」IIIFと、地続きにつながります

ここまでのポイント

- ✓ **Mirador** は、IIIFの画像を見て・比べて・注釈するオープンソースのビューア
- ✓ 画像の**領域を囲んでコメント**すると、中身は **Web Annotation** になる
- ✓ IIIFの画像に注釈を**重ねて**、Miradorで表示できる = IIIFと地続き

仕組みが見えたところで、少し立ち止まって考えてみましょう。

考えてみよう

あなたなら、**何に・どこに**、注釈をつけますか？

資料の、どの部分に、どんなコメントを。ここで少し、動画を止めて考えてみてください。

注釈は、解釈そのもの

- ✓ 何を**対象**に選び、どこを**どう切り取る**かは、機械的には決まりません
- ✓ 「ここに注目せよ」という**選び方そのもの**に、読みと判断が表れます
- ✓ 標準化された注釈は、その判断を**他者と共有し、積み重ねる**ことを可能にします

注釈を付けることは、資料を**どう読むか**を示す、すぐれて人文学的な営みです

始め方・学ぶには

- ✓ まず触れる： **Mirador** で公開IIIF画像を開き、領域に注釈を付けてみる
- ✓ Webページに： **Hypothes.is** で、ウェブ上の文章に注釈を付けてみる
- ✓ 体系的に： **IIIF** の Cookbook（注釈の作例）、 **W3C Web Annotation Data Model**
- ✓ 確かめる： 付けた注釈の **JSON-LD**（body・target・selector）を眺めてみる

まずは「画像の一部にコメントを付ける」ところから。仕組みはあとからついてきます

まとめ

- ✓ **Web Annotation** は、注釈を共有できるWebのデータにするW3C標準
- ✓ 基本は **body (中身) + target (対象)**。**セレクト**で「一部分」を指せる
- ✓ 注釈は **JSON-LD**・**自分のIRI**を持つ = 共有・集約・引用できる
- ✓ **Mirador** (IIIFビューア) で、画像の領域に注釈を付けて見られる

画像を「配る」IIIFに、「ここに、こう読む」を重ねる — それが Web Annotation です

出典・ライセンス

本動画は、以下のオープンライセンス教材を参照して作成しました。

- ✓ IIF 公式ドキュメント（Presentation API は Web Annotation を採用） / IIF Consortium — CC BY 4.0
- ✓ 事実確認：W3C Web Annotation Data Model（2017勧告） / Mirador（projectmirador.org, OSS）

スライド・図は中村による新規作成（概念を参照し、表現は新たに構成）。

ご清聴ありがとうございました